

総人口に対する15歳未満の「子ども」の比率は、現在の日本が12%であるのに対してカンボジアは2.5倍の31%となっており、これは終戦後日本の1950年から1960年にかけての割合とほぼ同じになります。

その子どもたちの通うカンボジアの学校については、地方の公立の学校では校舎や教師が不足して未だにNGOなどの支援が必要とされる一方で、都市部ではプライベートの学校が次々と開校して、入校するのに順番待ちをするほどにもなっています。学校も含めて子ども向けの商売が流行るのは当然の流れかもしれませんが、都市部と地方の学力の格差が益々広がるのには何か政府としても手をうって欲しいところです。

チアさんは首都プノンペン郊外の市場で子ども用の自転車や車などのお店を構えています。



近くに集合建売住宅街も次々とできているので、一軒家を持った家庭が子供用の自転車、三輪車、電動の車などを買おうという需要も増えているようで、わが社のローンを使ってさらに仕入れを増やしているということです。

以前は大人用の自転車や小型のバイクを販売していたそうですが、今は子供用の乗り物と、子どもから大人まで乗れる電動バイクに特化して販売しているということです。

実はカンボジアはバイクの免許が撤廃されているので、小学生でもバイクに乗れるのですが、特に集合住宅街の中の移動用とか小学校や中学校への通学用にも電動バイクを買うケースも増えているそうです。過保護の日本とは対比的ですがそれもちょっと心配ですね。

商品は主にベトナムから仕入れているということで、他にもタイや中国製も扱っていますがカンボジア製のものはない、というよりもほとんど作られていないそうです。1人あたりGDPはベトナムのほうが2倍ですが最低賃金はベトナムと変わらなくなってきたので、カンボジアに工場を作って生産しようという動きにはならないということなのでしょう。

私が初めてカンボジアに来た30年前にはその日に食べるものにも困っていた子どもも多かったのが、まだまだ地域格差の問題はあるものの、子どもたちが段々とこういう乗り物や玩具で普通に遊べるようになってきているのは素直に喜んで、豊かに育った子どもたちが良い国を作ってくれるのを期待したいですね。



小柄ですが5人の子のお母さんのチアさん



電動バイク 350ドル

2022年10月23日

磯部正広